

千葉県銚子地域屏風ヶ浦に分布する犬吠層群中の前期更新世テフラ対比に関する再検討

Re-examination on correlation of Early Pleistocene tephtras in Inubo Group at Byobugaura in Choshi Area, Northeast Japan

村田 昌則 [1]; 鈴木 毅彦 [2]

Masanori Murata[1]; Takehiko Suzuki[2]

[1] 首都大・都市環境・地理環境; [2] 首都大・都市環境

[1] Dept of Geography, Tokyo Metropolitan Univ; [2] Dept. of Geography, Tokyo Metropolitan Univ.

千葉県銚子地域には、鮮新世～更新世に堆積した海成層からなる犬吠層群が分布する。酒井（1990）は、テフラを鍵層として犬吠層群の岩相層序を明らかにし、さらに古地磁気・放散虫化石データから犬吠層群の堆積年代を検討した。藤岡・亀尾（2004）は、テフラの記載岩石学的性質と石灰質ナノ化石層序の検討結果から、房総半島上総層群梅ヶ瀬層中のU6A, U7, U8, 大田代層中のO3, O7, 黄和田層中のKd5A, Kd16, Kd24, Kd25, Kd38, Kd39の各前期更新世テフラを犬吠層群小浜層中に見出した。海成層が連続的に露出する銚子地域の犬吠層群は、関東平野東端に位置するため、関東平野中央部地下や同平野西部丘陵群の上総層群相当層に対して標準的な層序を提供することができる。犬吠層群中には上記以外にも多数のテフラ層が挟在している。演者らは武蔵野台地地下においてテフラ層序に基づく層序を検討してきたが（佐藤ほか, 2005; 鈴木, 2006など）、より精緻なテフラ層序を確立するための基礎データを得る目的で、関東平野東端に分布する犬吠層群中のテフラについて詳細な検討を行った。すなわち本研究では、銚子地域屏風ヶ浦の犬吠層群小浜層中のテフラのうち藤岡・亀尾（2004）で未対比であるテフラについて、火山ガラス・斑晶鉱物の屈折率および火山ガラスの主成分・微量成分化学組成分析に基づいて房総半島上総層群中のテフラとの対比を検討した。その結果、犬吠層群小浜層中に大田代層中のO18A, 黄和田層中のKd8A, Kd17, Kd18, Kd22の上位約10mに位置する未命名ガラス質火山灰層（里口, 1995の104に相当）、Kd23Bに相当する前期更新世テフラを見出した。この中で未命名ガラス質火山灰層としたものは、鈴木・村田（2007, 本大会）により福島県会津地域を給源とする白河隈戸テフラSr-Kmdとされたものに相当する。以上の対比・認定結果は、藤岡・亀尾（2004）のテフラ対比の結果と層位的に矛盾しない。この結果と藤岡・亀尾（2004）によるテフラ対比は、武蔵野台地地下をはじめ、多摩丘陵・房総半島など南関東全体の上総層群相当層のテフラ層序を組み立てる上で有効な手段となる。